

問い合わせ先

第八管区海上保安本部

広報地域連携室

奥野 哲也・今出 高廣

電話 0773-76-4100(内線 2111・2117)



平成29年9月28日
第八管区海上保安本部

冬の日本海は要注意

～ 大型船の乗揚げ事故を防ぐために～

今年に入り、管内で半年間に3隻ものコンテナ船が機関故障により漂流し、当庁への通報の遅れとサルベージ契約の締結に時間を要したことから、内2隻についてはあわや乗揚げという距離まで陸岸に異常接近しました。当管区では過去にも大きな乗揚げ事故が発生しており、日本海の気象特徴等を踏まえ、同事故未然防止のポイントを海事関係者等に周知し、注意喚起等を図ることとしています。

～ 冬の日本海の特徴～

冬の日本海は、北西寄りの強い季節風及び海流の影響から、漂流すれば、短時間で陸岸方向へ圧流されます。

特にコンテナ船のような風を受ける面積（風圧面積）の大きい船舶は、乗揚げの危険性が高まることから、対応の遅れが大きな災害となります。



乗揚げ防止のポイント

機関故障等の海難が発生したら、早期対応がポイント

- ✓ 海上保安庁への早期通報
- ✓ 代理店の把握と早期設定
- ✓ サルベージ会社との連絡体制確保と早期契約（外洋タグポート手配）等

対応策

冬季を前に10月に集中的に指導に取り組んでいきます。

- ➡ 海事関係者等を通じた、日本海を航行する船舶に対する早期通報等の指導・徹底
- ➡ AISメッセージを活用した航行船舶への注意喚起
- ➡ 代理店及び入港外国船へのリーフレットの配布による注意喚起

AISメッセージ：船舶自動識別装置(Automatic Identification System)への情報(メッセージ)

最近のコンテナ船漂流事案

1 島根県浜田市沖（平成 29 年 1 月 13 日認知）

午前 11 時頃、A 号から「浜田港沖で機関故障のため午前 2 時頃から漂流中である」旨の無線通報を受け、巡視船・航空機を発動した。

A 号は陸岸向けに流されており、24 時間後には陸岸に乗り揚げると予測された。

船主手配の救助タグボートが午後 8 時前に到着し、翌日午前 1 時過ぎ、距岸約 2 海里（約 4 km）で A 号の曳航を開始した。

漂流時間：約 23 時間（通報後約 14 時間）

（A 号：総トン約 9 千ト、乗員 18 名（韓国他））



2 福井県小浜市沖（平成 29 年 2 月 2 日認知）

午後 4 時過ぎ、B 号から「小浜湾沖で機関故障のため漂流中である」旨の無線通報を受け、巡視船・航空機を発動した。

発生場所が陸から約 7.4 海里（約 14 km）で 6 時間後には陸上に接近すると予測された。

巡視船が曳航準備中の午後 9 時 47 分頃、B 号は陸岸から約 0.3 海里（約 600m）まで接近したところで錨を降ろして漂流は止まった。

漂流時間：約 8 時間 30 分（通報後約 6 時間）

（B 号：総トン数約 4 千ト、乗員 17 名（韓国他））



3 京都府経ヶ岬沖（平成 29 年 7 月 1 日認知）

午後 5 時頃、船舶運航者から「C 号が前日午後 4 時頃に舞鶴沖で機関が故障し、北東向け漂流している」旨の通報を受け巡視船・航空機を発動した。

C 号は、自力での復旧が出来ず、業者による修理が必要な故障で、48 時間後には能登半島に接近すると予測された。

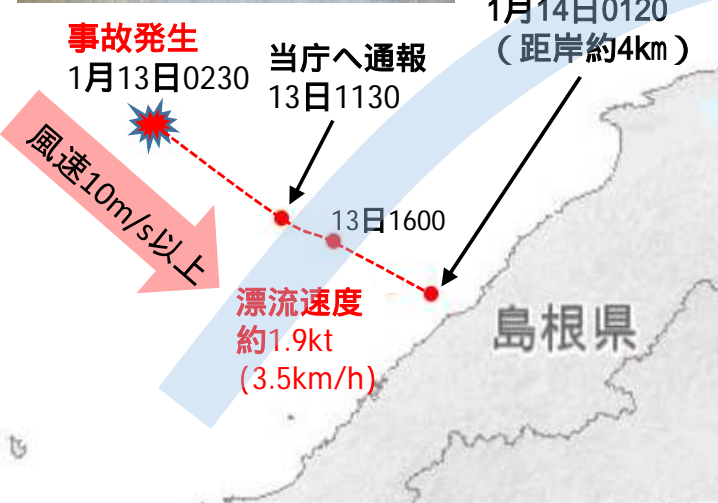
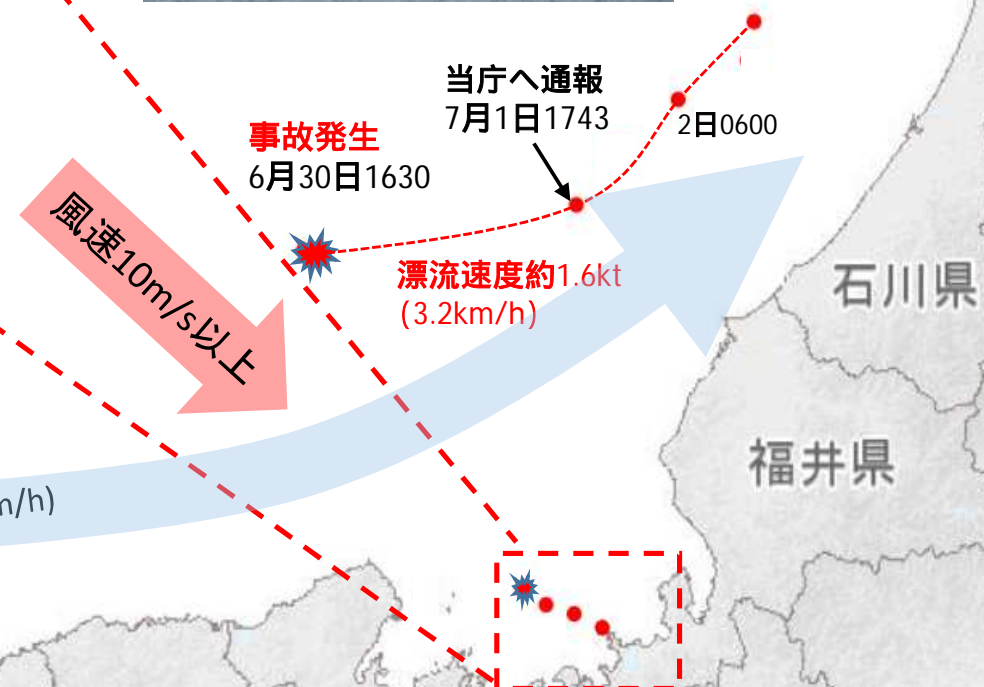
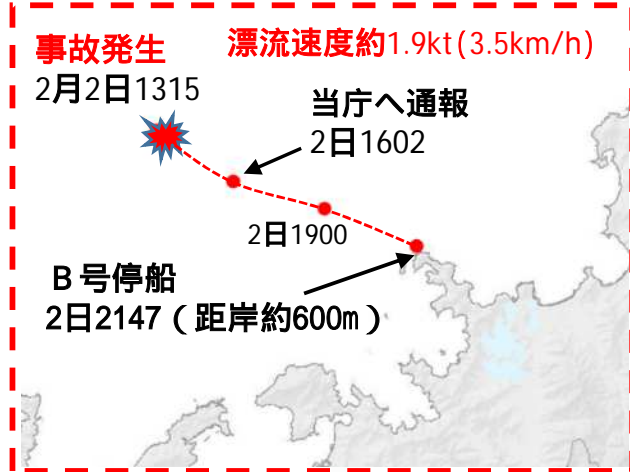
2 日午後 3 時半頃金沢沖約 21 海里（約 39 km）で巡視船 C 号の曳航を開始し、午後 9 時頃船主手配の救助タグボートが到着、午後 11 時 15 分曳航を巡視船から引き継いだ。

漂流時間：47 時間 30 分（通報後約 22 時間）

（C 号：総トン数約 7 千ト、乗員 14 名（ロシア他））



最近半年間に発生したコンテナ船漂流事案



流速0.5kt~2.0kt(1km/h~3.7km/h)

風速10m/s以上

鳥取県 岡山県 兵庫県 京都府 滋賀県 福井県 石川県 島根県

N号船尾部沈没位置

N号海難発生位置

風速22m/s



N号船首部漂着位置

石川県

富山県

風速18m/s

流速0.5kt~2.0kt(1km/h~3.7km/h)

平成2年1月
リベリア籍貨物船「マリタイム・ガーディニア」(7,027ト)
が乗揚げ、推定重油約863ト
ン流出

M号乗揚げ位置

京都府

滋賀県



平成9年1月
ロシア籍タンカー「ナホトカ」(13,157トン)
の船体が折損し船尾部が沈没、
船首部が福井県に漂着
推定重油約6,240トン流出



過去の座礁油流出事故

ロシア籍油タンカー「ナホトカ号」

1. 発生日、場所、気象海象

- (1) 平成9年1月2日
- (2) 島根県隠岐島北北東約106km
- (3) 西の風22m、波高8m

2. 船舶の概要

- (1) 船名 NAKHODKA (ナホトカ)
- (2) 総トン数 13,157総トン
- (3) 積荷 C重油約19,000kl
- (4) 乗組員 32名

3. 事故の概要

- (1) 上海からペトロパブロフスク向け航行中、船体が折損、後部側が沈没して船首部が漂流したものを。
- (2) 破断した貨物タンクから約6,240kl (推定) のC重油が流出、その一部が日本海沿岸に漂着し、被害は1府8県に及んだ。
船首部は、約2,800kl (推定) のC重油を残存したまま漂流し、福井県三国町沿岸に着底した。

4. 対応状況

- (1) 海上保安庁、自衛隊、港湾建設局 (現地方整備局)、地元自治体、ボランティア、海上災害防止センター等が、回収を行い、海上での作業は2月18日に終了、漂着した船首部は4月20日に撤去された。
- (2) 延べ出動人員約772,000人、船艇約4,700隻
油回収量約57,000kl (油性ゴミを含む)



リベリア籍貨物船「マリタイム ガーディニア号」

1. 発生日、場所、気象海象

- (1) 平成2年1月25日
- (2) 京都府経ヶ岬南東約1,600m付近 (座礁・擱座位置)
- (3) 吹雪、北の風20m、うねり波高3m

2. 船舶の概要

- (1) 船名 MARITIME GARDENEA (マリタイム・ガーディニア)
- (2) 総トン数 7,027総トン
- (3) 積荷 なし (搭載油916ト (C重油801ト、A重油97ト、潤滑油18ト))
- (4) 乗組員 24名

3. 事故の概要

- (1) 福井県内浦港から船体応急修理のため山口県の造船所向け航行中に海上気象警報が発表されたが、減速し航行を続けたところ、北の風により陸岸に圧流され、右転し針路を立て直すことができず、左転による立て直し回頭中に岩場に底触し機関室に浸水、航行不能となり京都府経ヶ岬南東約1,600m付近に座礁したものを。
- (2) 座礁時の衝撃、風浪等による動揺で船体に亀裂が入り搭載燃料油の一部が流出し、付近海岸 (伊根町) に漂着、更に荒天により船体が破断し、大量のC重油等が流出、西は京都府久美浜、東は福井県美浜町に至る3市8町の広範囲に漂着した。

4. 対応状況

- (1) 海上保安庁、自衛隊、港湾建設局 (現地方整備局)、地元自治体、ボランティア、海上災害防止センター等が、主として人力で回収を行い、3月31日までにほぼ処理を終わった。
- (2) 延べ出動人員約21,500人、船艇約640隻、
油回収量約1,150ト (水分等含む)

